

# 地域福祉に関する中学生アンケート調査の結果

## 調査の実施概要

### (1) 調査の目的

第2期鈴鹿市地域福祉計画を、第3次鈴鹿市地域福祉活動計画（鈴鹿市社会福祉協議会が策定主体）と一体的に策定するにあたり、次代の鈴鹿市の地域福祉の中核を担う子どもたちの意識を、地域の活動や福祉教育への参加などとの関わりなどもふまえながら把握し、計画に反映するために実施しました。

### (2) 調査の方法

鈴鹿市内の中学校うち3校に協力を依頼し、各学校の2年生全員を対象として実施しました。

### (3) 調査票の回収状況

3校をあわせて554人の生徒から回答を得ました。

### (4) 調査の内容

子どもたちの福祉に関する意識や行動を、地域の活動や福祉教育の参加状況などどのような関わりがあるかを含めて把握するため、つぎに事項について設問を行いました。

#### ① 回答者の基本属性について

\*性別、鈴鹿市での居住期間、家族の地域活動への参加状況

#### ② 地域の活動や福祉教育との関わりの状況

\*近所の人とのあいさつや行事等への参加の状況、福祉教育への参加と評価の状況、ボランティア活動への参加状況と意向・参加してよかったこと・参加しない理由

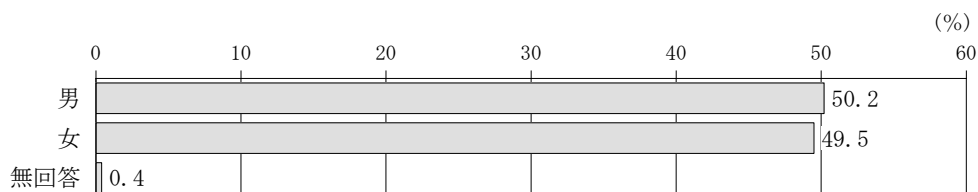
#### ③ 福祉などに関する意識や行動

\*まちなかで心がけていること、友だちや自分が困ったときの対応、鈴鹿市で住み続ける意向

## 調査の結果

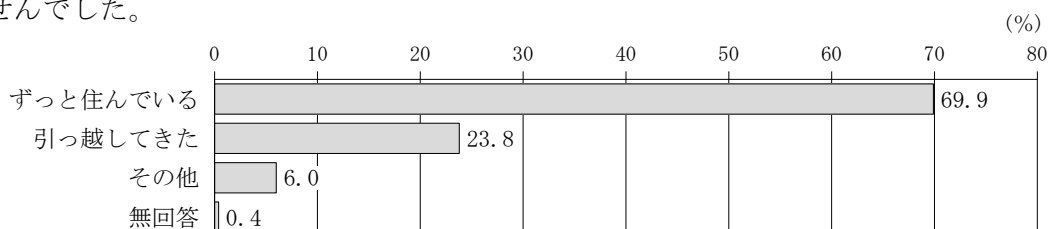
### 問1 あなたの性別は。

調査に回答していただいた生徒の性別は、「男」が50.2%、「女」が49.5%です。



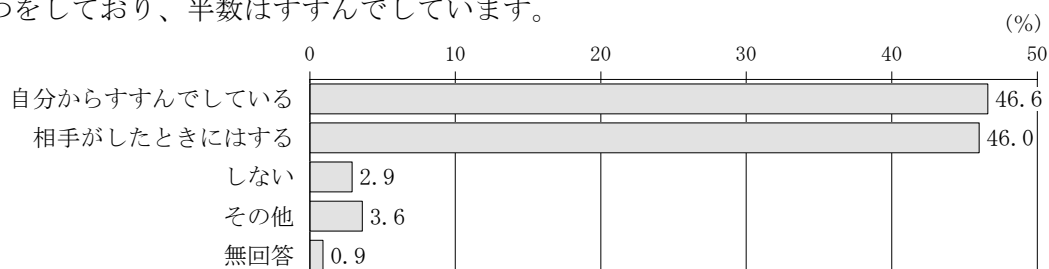
### 問2 あなたは、生まれてからずっと鈴鹿市に住んでいますか。

生まれたときから鈴鹿市に「ずっと住んでいる」人が69.9%、鈴鹿市以外で生まれて「引っ越してきた」人が23.8%、「その他」が6.0%です。調査を実施した3つの中学校は校区の地域性に違いがありますが、調査に回答した生徒の居住期間に大きな差はありませんでした。



### 問3 あなたは、近所の大人の人と、あいさつをしていますか。

「自分からすすんでしている」人が46.6%、「相手がしたときにはする」人が46.0%です。あいさつを「しない」と答えた人は2.9%で、ほとんどの生徒は近所の大人とあいさつをしており、半数はすすんでしています。



#### 《地域の行事・活動への参加別にみると》

問4で尋ねた地域の行事や活動への参加状況とクロスすると、選択肢としてあげた行事等に参加したことがない人では、あいさつを「自分からすすんでしている」人は31.3%と、行事等に参加している人より割合が小さくなっています。【表1】

#### 《家族の地域活動等への参加別にみると》

問12で尋ねた家族の地域活動やボランティア活動の参加状況とクロスすると、家族のいずれかが活動に参加している人では、あいさつを「自分からすすんでしている」人の割合が大きいです。【表2】

問4 あなたは、地域の行事や活動に参加したことがありますか。(複数回答)

校区の地域性から行われている行事や活動の状況に違いがあるため、学校によって参加状況に差がありますが、3校全体で見ると「地域のおまつりや盆踊り」61.0%、「子ども会の活動」41.9%、「道路や公園の清掃活動」40.6%、「地域の運動会やスポーツ大会」28.2%など、83.7%の生徒はなんらかの行事や活動に参加しています。

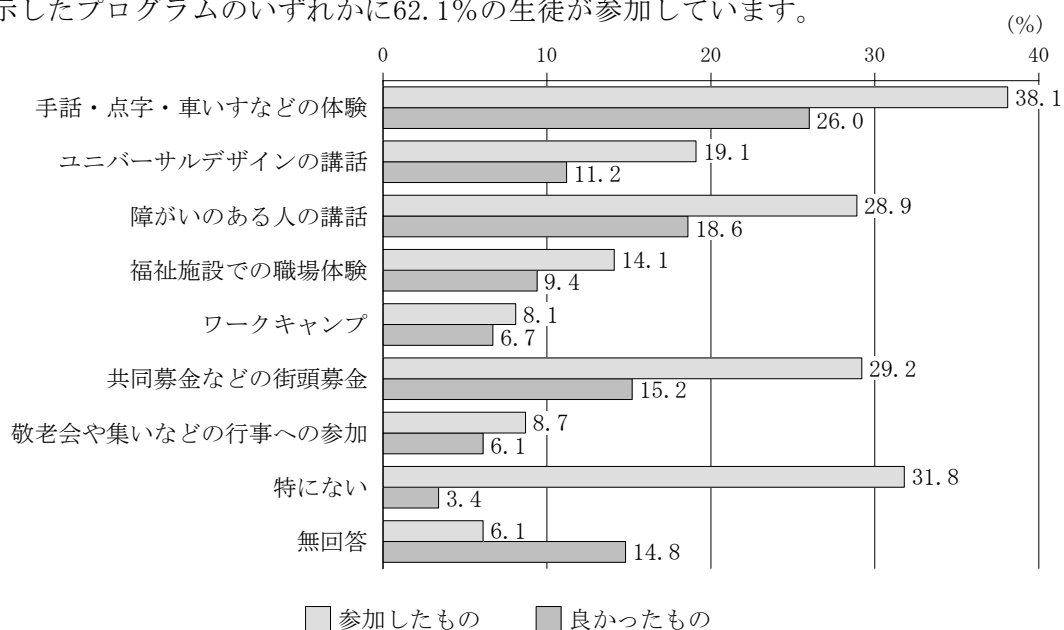


《家族の地域活動等への参加別にみると》

家族の地域活動やボランティア活動の参加状況とクロスすると、家族のいずれかが活動に参加している人は、行事等に参加している人の割合が大きめですが、家族に参加している人がいなくても、76.8%はなんらかの行事等に参加しています。【表3】

問5 あなたは、学校や地域の福祉教育として、つぎのような活動に参加したことがありますか。また、参加して良かったと思うものがありますか。(複数回答)

学校での福祉教育は各学校の教育目標や指導計画等に応じて取り組まれており、地域での取り組みにも差があると考えられることから、学校によって各活動への参加状況に大きな差がありますが、3校全体で見ると「手話・点字・車いすなどの体験」38.1%、「共同募金などの街頭募金」28.9%、「障がいのある人の講話」28.9%など、選択肢で例示したプログラムのいずれかに62.1%の生徒が参加しています。



このうち、参加して良かったと感じた人の割合をみると、「ワークキャンプ」82.2%、

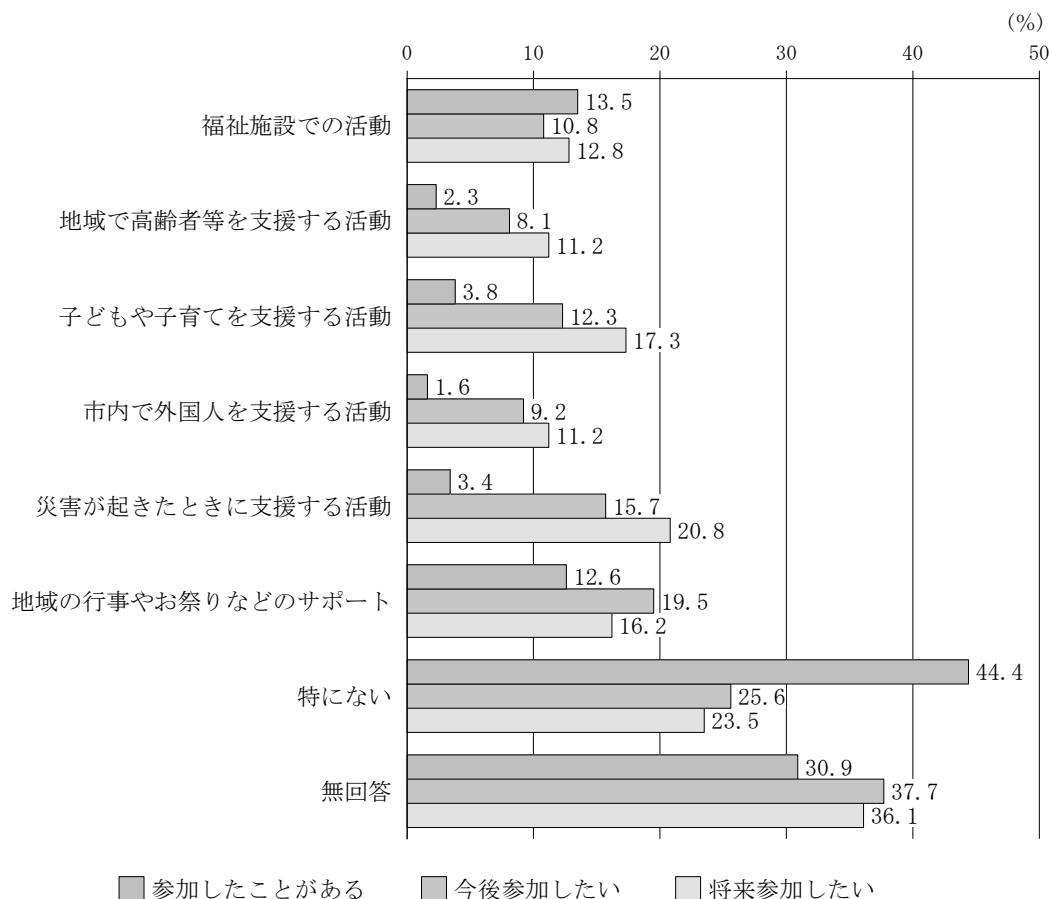
「敬老会や集いなどの行事への参加」70.8%、「手話・点字・車いすなどの体験」68.2%、「福祉施設での職場体験」66.7%など、参加・体験型の学習が良かったと感じる生徒の割合が大きくなっています。

問6 あなたはこれまで、福祉教育以外で、つぎのようなボランティア活動に参加したことがありますか。また、今後（中学・高校ぐらいの間）や将来（大人になってから）、参加したいと思いますか。（複数回答）

福祉教育以外でのボランティア活動については、「福祉施設での活動」13.5%や「地域の行事やお祭りなどのサポート」12.6%を1割以上があげていることはじめ、24.7%の生徒が、選択肢としてあげた活動に現在までに参加したことがあると答えています。

今後（中学・高校生ぐらいの間）は、「地域の行事やお祭りなどのサポート」19.5%や、これまでに参加した人はあまり多くない「災害が起きたときに支援する活動」15.7%、「子どもや子育てを支援する活動」12.3%なども含めて、36.7%の生徒が参加したいと答えています。

また、将来（大人になってから）は、「災害が起きたときに支援する活動」20.8%をはじめ、40.4%の生徒がなんらかの活動に参加したいと答えています。



#### 《地域の行事・活動への参加別にみると》

地域の行事や活動への参加状況とクロスすると、地域の活動等に参加したことがない人では、なんらかのボランティア活動に参加した人も7.3%にとどまっており、今後の参加意向も低い傾向がみられます。【表4】

### 《福祉教育への参加別にみると》

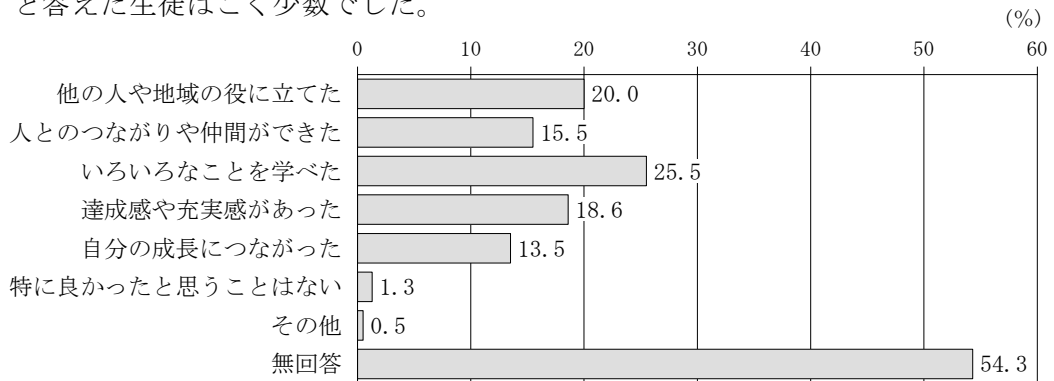
福祉教育の参加状況は複数回答のため、どのプログラムが影響したかを明確に示すことはできませんが、福祉施設での職場体験やワークキャンプに参加した人では「福祉施設での活動」にそれぞれ46.2%、44.4%、敬老会や集いなどの行事に参加した人は「地域の行事やお祭りなどのサポート」に37.5%、「災害が起きたときに支援する活動」に18.9%が参加するなど、割合が大きめです。一方、福祉教育に参加したことが特にない人では、選択肢としてあげたボランティア活動に参加した人は9.1%にとどまり、今後の参加意向も低い傾向がみられます。【表5】

### 《家族の地域活動等への参加別にみると》

家族の地域活動やボランティア活動の参加状況とクロスすると、家族のいずれかが活動に参加している生徒では、ボランティア活動に参加している人の割合が大きめで、特に兄弟姉妹が参加している人では、「地域の行事やお祭りなどのサポート」に41.4%が参加するなど、各活動に参加している人の割合が大きめです。一方、活動に参加している家族がいない人で、ボランティア活動に参加したことがある人は15.3%と、全体平均よりも割合が小さめです。【表6】

**問7 ボランティア活動に参加したことがある人は、参加して良かったと思うことがありますか。(複数回答)**

問6で尋ねた活動も含め、ボランティア活動に参加して良かったことを尋ねたところ、「いろいろなことを学べた」25.5%、「他の人や地域の役に立てた」20.0%、「達成感や充実感があつた」18.6%、「人とのつながりや仲間ができた」15.5%、「自分の成長につながった」13.5%など、さまざまな面での成果があげられ、良かったことが「特にない」と答えた生徒はごく少数でした。

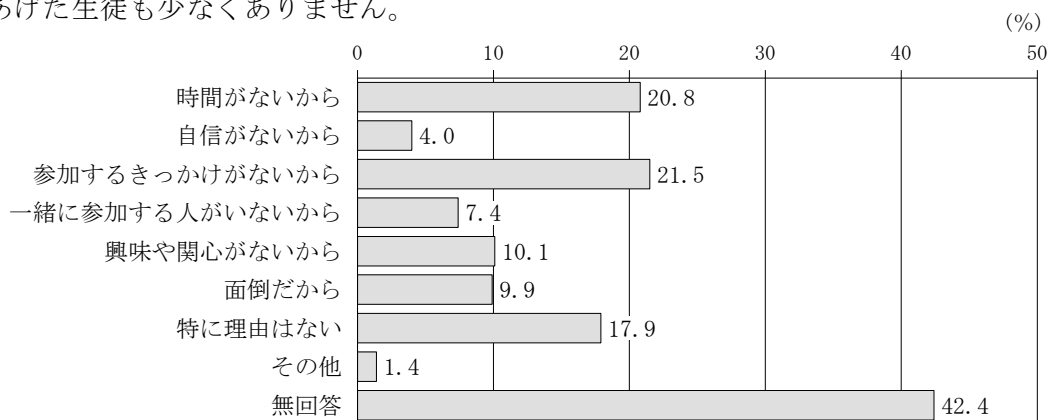


### 《ボランティア活動への参加別にみると》

いずれの活動も、参加して良かったことが特にないと答えた人はごく少数で、多くの人が成果を感じていますが、「他の人や地域の役に立てた」という成果は、災害が起きたときに支援する活動や地域で高齢者等を支援する活動をした人で、あげた人の割合が大きくなっています。また、「人とのつながりや仲間ができた」は地域で高齢者等を支援する活動、市内で外国人を支援する活動、子どもや子育てを支援する活動、「いろいろなことを学べた」は災害が起きたときに支援する活動や福祉施設での活動、「達成感や充実感があつた」は地域で高齢者等を支援する活動、「自分の成長につながった」は地域の行事やお祭りなどのサポートで、あげた人の割合が大きめです。【表7】

**問8 ボランティア活動に参加したことがない人は、どのような理由ですか。(複数回答)**

ボランティア活動に参加しない理由は、最も多かったのは「参加するきっかけがないから」21.5%でした。「時間がないから」20.8%という理由も約2割の生徒があげていますが、「特に理由はない」17.9%、「興味や関心がないから」10.1%、「面倒だから」9.9%、「一緒に参加する人がいないから」7.4%、「自信がないから」4.0%など、アプローチやサポートのやり方によっては意識が変化し、参加につながる可能性がある要因をあげた生徒も少なくありません。



《福祉教育への参加別にみると》

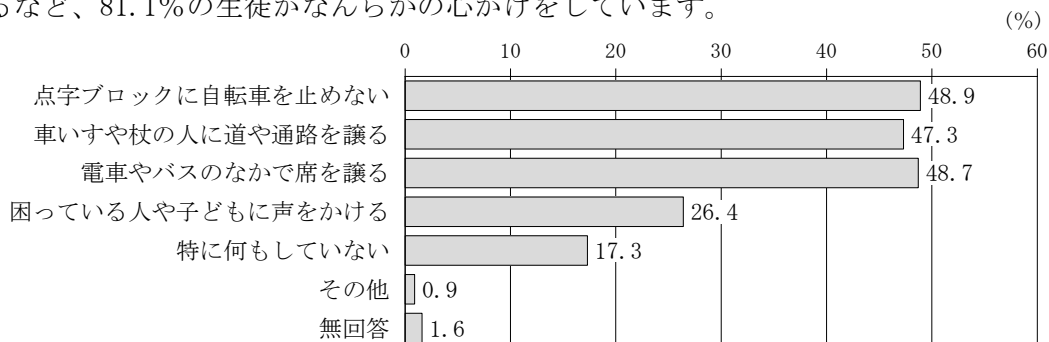
福祉教育に参加したことが特にない人では、「参加するきっかけがないから」、「特に理由がない」、「興味や関心がないから」という理由をあげた人の割合が全体平均よりも大きく、参加の動機づけが弱いことがうかがえます。【表8】

《家族の地域活動等への参加別にみると》

活動に参加している家族がいない人では、「参加するきっかけがないから」と答えた人が28.2%と、割合が大きいです。【表9】

**問9 あなたは、まちなかで、つぎのようなことに心がけていますか。(複数回答)**

「点字ブロックに自転車を止めない」48.9%、「電車やバスのなかで席を譲る」48.7%、「車いすや杖の人に道や通路を譲る」47.3%については、半数の生徒が心がけています。また、より積極的に「困っている人や子どもに声をかける」ことについても26.4%があげるなど、81.1%の生徒がなんらかの心がけをしています。



《近所の大人とのあいさつ別にみると》

自分からすすんであいさつする人は、いずれの項目も心がけている生徒の割合が大きく、「困っている人や子どもに声をかける」も34.5%と、全体平均を約8ポイント上回

っています。【表10】

#### 《地域の行事・活動への参加別にみると》

地域の行事や活動への参加状況とクロスすると、地域の活動等に参加したことがない人では、なんらかの心がけをしている人は69.9%と、全体平均よりも約11ポイント低くなっています。【表11】

#### 《福祉教育への参加別にみると》

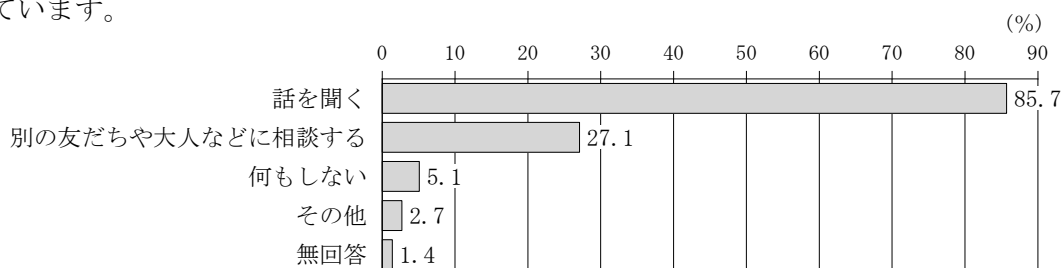
福祉教育でユニバーサルデザインの講話に参加した人では73.6%が「車いすや杖の人に道や通路を譲る」ことに心がけています。また、敬老会や集いなどの行事に参加した人は「困っている人や子どもに声をかける」が50.0%であるなど、いずれの項目も心がけている人の割合が大きくなっています。一方、福祉教育に参加したことが特にない人では、「特に何もしていない」人が23.9%で、いずれの項目も心がけている人の割合が小さめです。【表12】

#### 《ボランティア活動への参加別にみると》

ボランティア活動に参加したことがある人は、それぞれの項目について心がけている人の割合が大きめですが、特に、子どもや子育てを支援する活動をした人は「困っている人や子どもに声をかける」など、また、市内で外国人を支援する活動をした人は「車いすや杖の人に道や通路を譲る」や「点字ブロックに自転車を止めない」など、地域の行事やお祭りなどのサポートをした人は「電車やバスのなかで席を譲る」とあげた人の割合が大きくなっています。【表13】

### 問10 あなたは、友だちが困っていたり、悩んでいたらどうしますか。(複数回答)

85.1%が「話を聞く」と答え、さらに「別の友だちや大人に相談する」27.1%ことなども含めて、93.5%の生徒は、困ったり悩んでいる友だちになんらかの対応をすると答えています。



#### 《福祉教育への参加別にみると》

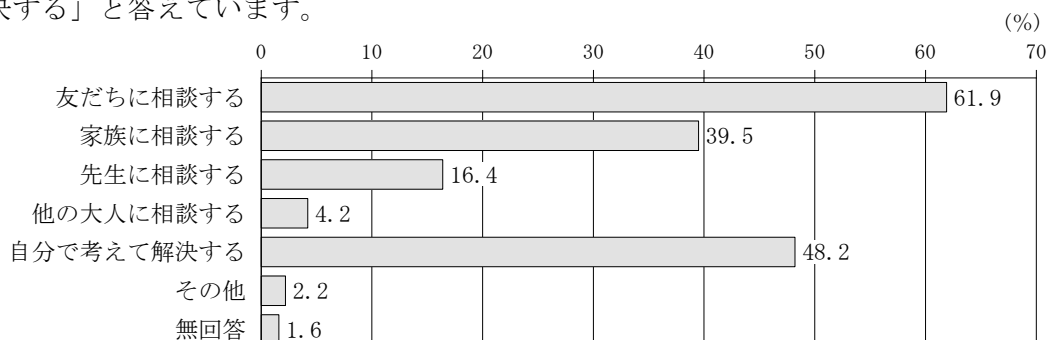
福祉教育に参加したことが特にない人でも、「話を聞く」は81.3%と少なくありませんが、「別の友だちや大人に相談する」人は21.6%と全体平均よりも割合が小さめで、「何もしない」と答えた人の割合がやや大きめです【表14】。

#### 《ボランティア活動への参加別にみると》

ボランティア活動に参加したことがある人で「何もしない」と答えた人はごく少なく、「別の友だちや大人に相談する」人の割合が大きめです。【表15】

問11 あなたは、自分が困ったときや悩みがあるときは、どうしますか。(複数回答)

自分が困ったり悩んだときに相談する相手としては「友だちに相談する」61.9%で最も多く、「家族に相談する」39.5%、「先生に相談する」16.4%、「他の大人に相談する」4.2%となっています。また、48.2%は相談することともあわせて「自分で考えて解決する」と答えています。



《福祉教育への参加別にみると》

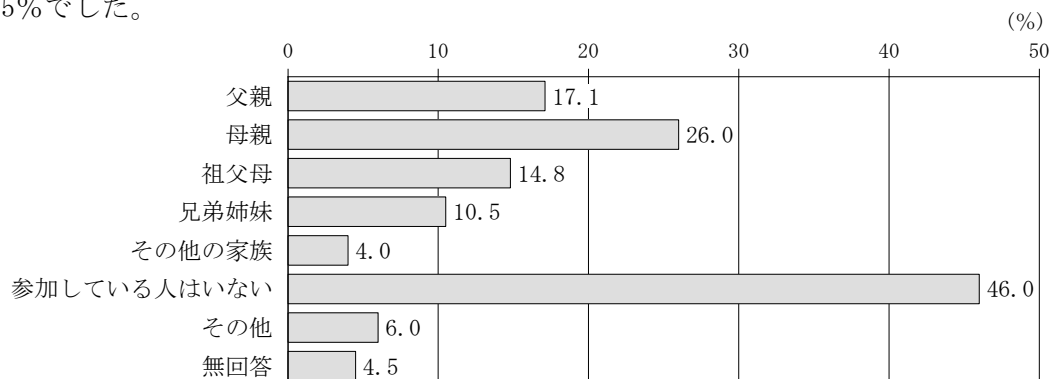
福祉教育でワークキャンプに参加した人では「友だちに相談する」が80.0%、「家族に相談する」が53.3%と、全体平均よりも割合が大きいです。また、敬老会や集いなどの行事への参加をあげた人では「先生に相談する」が39.6%であることに加え、「自分で考えて解決する」も62.5%と割合が大きくなっています。【表16】

《友だちが困ったときの対応別にみると》

友だちが困ったり悩んだときに「別の友だちや大人などに相談する」人は、自分が困ったり悩んだときも「家族に相談する」、「先生に相談する」、「他の大人に相談する」など、いろいろな人に相談すると答えています。あわせて「自分で考えて解決する」と答えた人の割合も大きいです。一方、友だちが困ったり悩んだときに「何もしない」と答えた人では、8割以上が「自分で考えて解決する」と答えています。【表17】

問12 あなたの家族（あなた以外）で、地域の活動やボランティア活動に参加されている方がいますか。(複数回答)

家族の地域活動やボランティア活動への参加の状況を尋ねると「母親」26.0%、「父親」17.1%、「祖父母」14.8%、「兄弟姉妹」10.5%など、だれかが参加している生徒は49.5%でした。



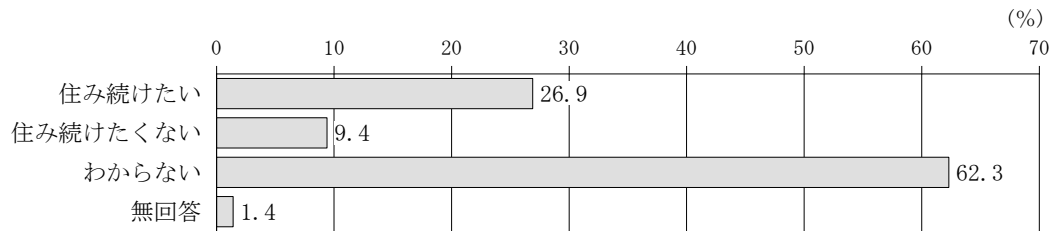


### 《居住期間別にみると》

鈴鹿市に生まれたときからずっと住んでいる人で、家族のいずれかが地域の活動に参加している人は50.7%、鈴鹿市以外で生まれて引っ越してきた人では46.9%と、居住期間が長い世帯の方がやや割合が大きいです。【表18】

### 問13 あなたは、大人になっても鈴鹿市に住み続けたいですか。

大人になっても鈴鹿市に「住み続けたい」と答えた生徒は26.9%、「住み続けたくない」と答えた生徒は9.4%で、現時点では「わからない」と答えた人が62.3%でした。



### 《居住期間別にみると》

いずれも現時点では「わからない」と答えた人の割合が大きいものの、鈴鹿市に生まれたときからずっと住んでいる人は「住み続けたい」が30.5%、「住み続けたくない」が4.1%であるのに対して、鈴鹿市以外で生まれて引っ越してきた人では「住み続けたい」が18.9%、「住み続けたくない」が25.0%と、一定の差が出ています。【表19】

### 《地域の行事・活動への参加別にみると》

地域の行事や活動に参加したことがない人では「住み続けたい」と答えた人の割合がやや大きめですが、それほど大きな差はみられません。【表20】